

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 のどか宅老所	代表者	矢山修一	法人・ 事業所 の特徴	事業所の理念である「家庭生活の延長線上にある介護」を大切に、一人一人の生活リズムに合わせたケアを心掛けている。合わせて家族の介護負担軽減が図れるよう、その日の要望に合わせたサービスが柔軟に提供できるよう対応している。
事業所名	小規模ホームのどか	管理者	神谷久美子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	前年度の課題に対して職員一人一人が意識を持ち達成できるように活動していく。	職員が見える場所に課題を提示する事で、意識し取り組めるようにしたが、達成出来たものばかりではなかった。	スタッフの方々が、仕事に目標を持って取り組んでおられることがよく分かります。	課題を明確にし、具体化する事によって、一つでも多く達成出来るように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者の方や家族の方にも居心地良い空間作りを行い、施設内でも季節を感じられる環境作りをしていく。	季節の花を玄関・ホールなど利用者の方の目が届く場所に飾ったり、壁面制作にて季節を感じられる取り組みを行う事が出来た。	清潔で明るく開放的な雰囲気を感じます。	施設への出入りが制限されている中、安心してご家族を送り出せるように利用者の方・家族の方への挨拶や気持ちの良い対応を心掛ける。
C. 事業所と地域のかかわり	引き続き地域の行事に積極的に参加していく。また事業所内での行事を地域の方に知ってもらえるようにチラシを配布しお知らせしていく。	今年度はコロナの影響で、行事への参加は出来なかったが、出来る範囲で実施した。院庄さくらこども園の園児への贈り物・院庄駅に定期的に座布団の掃除を行なった。	今年度はコロナ禍で活動が制約され、大変だったのではないでしょうか。	実施可能な地域との交流を検討し、繋がりが途切れないよう取り組む。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事に利用者と参加し交流を深める。また地域の祭りに作品を出品するなど、事業所の外でも活動を見てもらえる機会を作っていく。	地域のお祭りに出品予定だったが中止となった。利用者の方の作った俳句を院庄駅に展示する事が出来た。	今年度はコロナ感染防止のため、活動がしにくかったろうと思います。「のどか通信」で、地域との交流を知り、ありがたいと思っています。	各家庭の地域には踏み込めていない。実施される地域の行事の情報を収集し交流を図る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	推進会議で出た意見は引き続き職員間で共有していく。また近所の方で困っている方がいれば支援に繋げ、窓口となれるよう取り組んでいく。	職員の住む地域で困っていた方を支援に繋げる事が出来た。今後も、地域の方にも目を向け積極的に支援に繋げられるようにネットワークを広げていく。	運営推進会議に参加させていただくと、とても勉強になります。特に矢山理事長さんからは介護に関する色々な情報を教えていただけるので考えさせられます。	推進会議等で、ご家族の地域の方に支援が必要な方がいれば、情報を集め窓口となり、支援に繋がれるよう取り組む。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>火災以外の避難訓練に対しては課題が残る。地域の方に避難所としての認識が持ってもらえるように対策を立てる。</p>	<p>今年度は、水害時の避難訓練を実施。回数を重ね、スムーズに安全確保出来るよう、あらゆる場面でのシュミレーションが必要。地域の方から『避難場所』としての認識はまだまだもたれていないと感じる。</p>	<p>運営推進会議で、「自然災害の時は避難所に使ってもらってよい」というお話を聞いて、頼りになると思いました。</p>	<p>引き継ぎ「地震」「火災」「水害」に対しての避難訓練を実施し、安全確保に繋げる。実施の度に改善点を振り返り、地域の方を受け入れる体制を整える。</p>
----------------------------	---	--	---	---